

8/27 薬物脱却へ

女子寮開設

孤独に耐えられず、二度、三度と薬物に手を染めてしまう女性たちを救いたいと、自助更生グループ「岐阜ダルク」(岐阜市長住町)が、来年三月をめどに岐阜市内に女子寮を開設する。中部地方では初めて。

岐阜ダルク、来春めど

現在、女子寮があるのは、年十月の開設以来、通所は全国のダルクが運営する者を対象にミーティングの栃木、東京、大阪、高や運動を通じた薬物依存知、宮崎の五カ所。岐阜からの回復プログラムをダルクは民家か小さなビ提供してきた。笠松刑務所を借り、六人程度を受所(岐阜県笠松町)で受け入れる予定。一緒に暮刑者の指導もしている。らすことで健全な生活サイクルを保ち、共に励まのは難しい。「人生変えたいしながら薬物を断ちたいけど、手段が分からなくていく。ボランティアない」。岐阜ダルク代表アも常駐する。

岐阜ダルクは二〇〇四 せい剤取締法違反で服役

れない。

薬物常習者の多くは出所後も居場所を確保できず、治療に専念できない。家族にも縁を切られ、やむなく昔の仲間とのころに戻り、薬物に手を出すことも多い。二〇一一年版犯罪白書によると、覚せい剤取締法違反の罪で刑務所に再入所したのは、男性の28・5%に対し女性は48・8%。女性受刑者の半数近くが再犯だ。

女子寮設立で初年度に必要な資金は約三百五十万円。支援を受けるため民間財団に申請しているほか、一般の寄付を募る。遠山さんは「犯罪者のレッテルで切り捨てず、治療の機会を与えてほしい」と話している。寄付は一口五千円から。問い合わせは岐阜ダルク 電0558(251)6922。